

JO NAPOT!

ヨー・ナポット! No.47

Gifu - Hungary Friendship Association

Minokamo-city, Ota-cho 3431-1, 505-0041

TEL : 0574-28-1600 FAX : 0574-25-3917

HP: <http://www.gifu-hungary-fa.com/index.html>

2010. 10発行

秋涼の頃となりました。今年は真夏日が長く続き農作物に大きな影響を与え、馬肥える秋といかないようです。皆様にあつては、健やかに過ごしのこととお慶び申し上げます。

特報：ハンガリー汚染事故に対し、ライオンズクラブ国際協会の協力を得て

3層式マスク 50万枚をヴェスプレーム県に送る



(堤防が決壊した廃液貯蔵池)



(赤泥が流入した住宅)

10月初め、ヴェスプレーム県アイカ村のアルミ精錬工場の廃液貯蔵池から大量の廃液が流れ出し、死者やけが人が出る大きな事故が発生しました。廃液は、流域の河川を通じて一部ドナウ川にも流入しました。被災地周辺一面は赤色の汚泥に埋まり、復旧作業が続けられていますが、有害物質を含んだ粉塵が住人の健康に及ぼす影響が心配されています。

こうした状況に対し、ヴェスプレーム県のラストヴィツァ議長（知事）からブダペストの在ハンガリー日本国大使館の伊藤大使に、「日本のマスクを送ってほしい」との要請がありました。この要請は、外務省から日本ハンガリー友好協会を通して、ただちに岐阜県ハンガリー友好協会に伝わりました。当協会では当時、今回の汚染事故に対して「岐阜県ハンガリー友好協会として何が出来るか？何をするか？」を話し合っていたこともあり、すぐにマスクを送ることを決めました。しかし、マスクといっても工業用粉塵マスク、インフルエンザ予防用マスク、ガーゼマスクなど色々と種類があります。現地からの情報を集める中で、被災地域周辺の住民の健康のため、花粉症予防に使う3層式のマスクを要望する声が届きました。このため、同種のマスク1万箱50万枚（240万円相当）を送ることにしました。このマスク購入には、ライオンズクラブ国際協会 334B地区（ガバナー協議会：炭竈好司氏）のご支援をいただきました。

マスクは、近く航空便などを利用して、ヴェスプレーム県に届けられる予定です。

1. マスターコース、すべての計画を無事に終了（7月23日～8月7日）



（マスターコンサートの様子）

今年のマスターコースは、去る7月23日から8月1日までの間に、長良川国際会議場、仙川アヴェニュー・ホール（東京都調布市）、サラマンカホールの3会場でコンサートを開催し、8月2日から8月7日までレッスンを行いました。

今年のコンサート週間の特徴は、3年ほど前から企画を温めていました岐阜県の音楽家のためのレッスンを、コンサートの会間に開催したことです。会場となった大垣

女子短期大学からは、3人のピアニストが受講し、緊張した面持ちでレッスンを受けていました。このレッスンは、スケジュールの許す限り続けていきたいと考えています。

マスターコンサートは、久しぶりに教授だけのコンサートとなりました。プログラムは、モーツァルトのヴァイオリン・ソナタ第34番変ロ長調、ブラームスの3つの間奏曲 Op. 117 より、コダーイの抒情的ロマンス、ポッパーのマズルカ短調、シューマンのアダージョとアレグロ変イ長調と続き、後半にはシューマンのピアノ三重奏曲第1番ニ短調が演奏されました。今年は、ショパンの生誕200年記念の年でしたからファルヴァイ教授が弾くショパンの演奏を期待する声も多くありましたが、ショパンの研究者でもあったブラームスを取り上げて演奏され、これはこれで良かったと評価を得ました。

レッスンとなるマスターコースでは、岐阜県を始め愛知県、三重県、神奈川県、兵庫県、埼玉県大阪府、東京都、広島県、千葉県北海道から受講生が集まり、事業の広がりを感じました。また、今年の特徴は何と言っても若手の台頭です。中学生、高校生の演奏はレッスンとはいえ充実した内容でした。留学選考会では、ピアノ4人、ヴァイオリン2人チェロ3人が合格し、リスト音楽院への留学切符を手に入れました。来年は、どんな出会いがあるのか楽しみです。



（熱の入るチェロのレッスン風景）

2. チェリストの唐沢安岐奈さん、11月に名古屋でコンサートを開催

唐沢安岐奈さんは、マスターコース1回生でリスト音楽院留学終了後、読売日本交響楽団で活躍しているチェリストです。このほど11月12日（金）19時から名古屋市電気文化会館ザ・コンサートホールでコンサートを開催することになりました。ピアノの共演は、リスト音楽院留学時代から友人の上田 敏さんです。またプログラムは、ベートーヴェンの「魔笛」の主題による7つの変奏曲、ブラームスのチェロソナタ第1番など親しみある曲が演奏されます。チラシを同封しますので、是非ご来場いただきますようお願いいたします。

3. アニフ音楽祭、再始動（オーストリア・ザルツブルクからの連絡）



（サバディ准教授とクルーガー町長）

日本ザルツブルク同好会と連携した「アニフの舞台」については、キーパーソンとなっていた女性の事故の影響で準備が止まったままになっていましたが、事態の打開のため、このほどサバディ准教授と役員がアニフを訪問し、クルーガー町長と話し合った結果、来年9月26日から30日の期間に開催することとなりました。

この企画は、新しい音楽芸術家を世界の舞台に立てるようにしようと考えられたもので、マスターコースの発展的な事業として期待されている音楽祭です。前回の準備段階で、すでにリスト音楽院とモーツァルテウム校の教授同士の連携ができ、音楽祭のテーマ、プログラム、演奏者の人選も進められていました。開催は来年の秋となりましたが、これまでの準備を活かし、また新たなテーマとプログラムを決め、演奏者の人選が進められることになりそうです。この作業は今年中進められ、来春には全体会議が開催されて発表されることと思います。どんなプログラムで、日本から誰が選ばれるか大きな楽しみです。来年はリスト生誕200年であることから、リストがテーマとなり、日本からは楽友会の音楽会員が選ばれることが考えられます。

4. ブダペストの日本大使館でも大使館コンサート始まる

ハンガリーからの連絡によりますと、11月下旬にブダペストの日本国大使館公邸で、リスト音楽院に留学中の日本人学生のコンサートが開催されることになりました。これは、岐阜県ハンガリー友好協会とリスト音楽院との関係を知られた伊藤大使ご夫妻が、大使館活動の一環として開催されることになったものです。楽友会では、すでに東京のハンガリー大使館で「大使館コンサート」を開催していることから、東京とブダペストでそれぞれの大使館が留学生や修了生のコンサートを持つことになり、その成果が期待できます。

5. 来年のリストイヤーに向けて

来年はリスト生誕200年の記念年です。音楽部門楽友会では、これまで教授陣と話し合ってきた結果、プログラムはリストだけにこだわらずリストと関係があった音楽家まで広げることとし、5月中旬にオンツァイ教授（チェロ）が来日、7月中旬にサバディ准教授（ヴァイオリン）が来日し、7月下旬にはファルヴァイ教授、オンツァイ教授、サバディ教授が揃うことなどから、その来日に合わせて修了生とのコンサートを考えることとなりました。また、修了生や留学生などのコンサートは、基本的に各自の自主公演として薦め、後援名義として共通の印刷物を制作するなどの基本方針がまとまってきました。

共通タイトルは、リスト生誕200年記念「リストにふれた音楽家たち」として、期日、場所、出演者、曲目の一部を紹介する内容となります。

楽友会では、これまでに寄せられたアンケートを基に詳細を計画し、音楽会員に送ることになっています。

6. 新しい時代に入るリスト音楽院との提携



(サインに臨むバッタ院長)

一昨年から話し合いに入っていたリスト音楽院との合意書が、何回かの話し合いの末にこのほどまとまり、山田会長とバッタ院長との間でサインの交換が行われました。署名式には、在ハンガリー日本国大使館の伊藤大使夫人の立会いのもと、デヴィチ副院長、オンツァイ教授、サバディ準教授らが同席され、緊張した面持ちの中で行われました。署名交換後は、ハンガリーのトーレイ・スパークリングワインが振る舞われ、新しい時代の幕開けを祝うかのごと

く、集まった人たちから笑顔がこぼれました。

新しい合意書では、マスターコースの最終日に行われる留学選考会が、リスト音楽院の正式な試験として認定されたことが大きな改正点となります。これにより、これまで実績を重ねてきたマスターコース事業が、リスト音楽院の正式な登竜門となります。ひとつの民間交流団体が、リスト音楽院とこうした提携をすることは希有なことです。会員各位と支援者の皆様のご尽力とご協力に感謝をいたします。友好協会は、さらにマスターコースの完成度を高め、音楽振興の発展に尽くしたいと思います。

8. これからの予定

- 12月から1月末までに大使館コンサートを計画しています。
- 12月に総会を計画しています